

防災 CPD（日本技術士会建設部会・長野県支部合同現場見学会）

「大規模災害の復旧対策を学ぶ」

1. 日時

令和5年8月25日（金） 10：00～16：00

2. 参加人数 40名

- ・本部建設部会募集参加者16名

（技術士会会長、建設部会会長、幹事会員12名、他会員2名）

- ・長野支部募集参加者24名

（支部長、前幹事1名、幹事7名、会員11名、協賛団体3名、学生1名）

3. 概略行程

長野駅集合 長野市長沼： 令和元年台風19号水害について 昼食：道の駅オアシス
おぶせ 長野市上松： 昭和60年地附山地滑り復旧について 長野駅解散

4. 概要

地球温暖化に関連した極端気象により大規模な災害が全国で頻発するようになってきており、災害発生頻度やその規模が増加すると考えるのが必然であり、その極端な気象による災害は主に土砂災害や洪水災害である。土砂災害は、地表水や地下水の賦存状況と地質状況に左右されることは明らかであるが、発生メカニズムや対応した対策工は、都度異なるため、経験によるところが多い。一方の洪水災害は、築堤などにより対策は取られているが、極端気象や堤内、外の土地利用を含む降雨域状況の変化による流出量増大やピークに至る増加形態の変化により従来計画が過少となっているため、計画を見直したうえで対策をとる必要がある。斯様な状況に鑑み、建設部門を始めとし全技術部門が関係する防災に関する経験・知識の蓄積は我々技術士にとって重要な課題となる。

今回は、復旧工事が半ばに差し掛かった千曲川の堤防決壊地の復旧対策と近傍にある過去の大規模な土砂災害地の地附山地滑りについて短時間となるが学習見学会を計画した。

